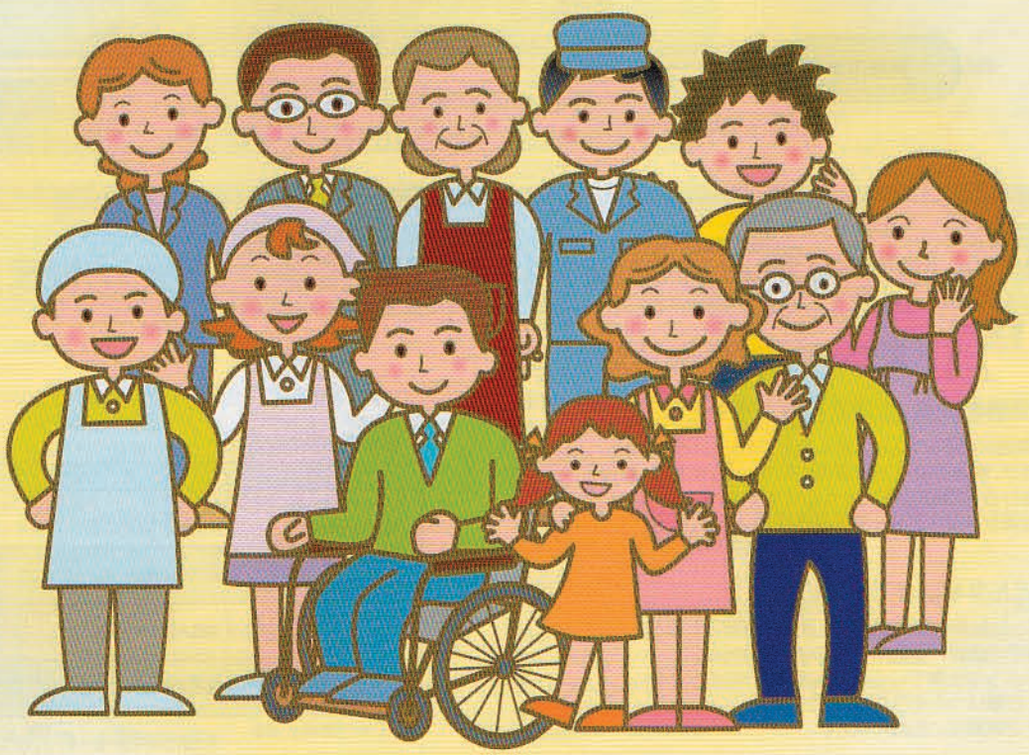
考えて見ませんか？
みんな笑顔になる働き方

大阪市では、障害のある方・高齢の方・母子家庭のお母さん・ホームレスの方など
就職に向けた支援が必要な方の就業支援に向けた取り組みを行っています。
今回、就職に向けた支援が必要な方を採用されている5つの企業の事例及び
各支援機関、助成金制度等をご紹介いたしますので、参考としてご活用ください。



■事業主のみなさんへ……P.1・2

■大阪市の特別支援学校の取り組み…P.3・4

■企業の実例

1. 知的障害のある方を採用……P.5・6
2. 身体障害のある方を採用……P.7・8
3. 母子家庭のお母さんを採用……P.9・10
4. 高齢の方を採用……P.11・12
5. ホームレスの方を採用……P.12・14

CASE 2
身体障害のある方

配慮が必要な部分をお互いに理解することで、障害者雇用は特別なことではなくなる。

有限会社 奥進システム

本　　社　〒540-0027
大阪市中央区鎗屋町2丁目2番4号 イチクラビル4F
TEL 06-6944-3658 FAX 06-6944-3659
http://www.okushin.co.jp/
設　　立　平成12年(2000)2月2日
代表取締役　奥脇 学

奥脇社長

スタッフ6名のうち4名が障害のある方

奥進システムは、インターネット技術を活用して、業務管理システムの開発、ECサイト*1の製作と運営、UNIX系システムの開発、システムコンサルティング、WEBプロモーションなどに取り組んでいる会社です。社長の奥脇学さんは、「インターネットが持つ可能性を最大限に活用して、お客様や利用する人々が便利な社会になるよう貢献していきたい」と考えています。

現在、スタッフ6名のうち4名が障害のある方ですが、奥脇社長は最初から障害のある方だけを採用するつもりでいたわけではありません。奥進システムの設立は平成12年(2000)です。インターネットの普及が進み、IT技術の活用が注目され始めた頃でした。奥脇社長は15年近く勤めた大手企業を退職し独立を果たしましたが、以前から「結婚して退職した方や障害のある方など、優秀な能力があっても社会に出られない人がいるのはもったいない」と感じていました。

始まりは、ひとつの出会いからでした

在宅でシステム開発をした経験もあった奥脇社長は、奥進システムの仕事を在宅勤務中心にできないかと考えていました。就労場所にとらわれずに仕事のできる人たちのネットワークを構築するため、SOHO(ソーホー)*2などの団体や職業訓練施設などを回って可能性を模索していました。

そんなとき、大阪市職業リハビリテーションセンター(リハビリセンター)から、「情報処理科の訓練生が貴社に興味を持ち就職したいといっているが、その前段階の実習を頼めないか」という依頼を受け、福井謙一さんと出会うことになりました。

当時、会社としては採用や実習を受け入れることも困難なほどの危機的状況にありました。しかし、「家で引きこもっていても何も生まれない。社会とつながっていたい。そのためにも働きたい」という福井さんの熱意と、実習で福井さんの実力を見て、「やれる」と確信しました。

共に働ける環境づくり

福井さんが入社して約1年後、リハビリセンターの後輩の小西秀幸さんが福井さんの強い推薦で採用されることになりました。

小西さんの採用を契機に、それまで週4日の在宅勤務と週1日の出勤だった勤務体制は、週2日の在宅勤務と週3日の出勤に改められました。福井さんも小西さんも頚椎損傷による1級の障害者ですから、電動車いすでの移動が基本です。奥脇社長は、通勤の大変さに配慮して出勤を週1日だけに抑えていたのです。ところが、小西さんが「もっと出勤したい」と訴え、その結果2人とも週3日出勤することになりました。

そこで、奥脇社長は事務所の改装に着手しました。スロープの設置、事務所ドアの吊り下げ式引き戸への改善、車いすに合う机への買い替え、パソコン操作に不可欠なトラックボールマウス*3の導入、体調不良時に対応できる簡易ベッドの設置など、バリアフリーのオフィス環境が整備されました。

障害者と健常者が共に働けるよう事務所が整備され、一緒に働く時間や日数が増えたことにより、社内のコミュニケーションが自然と強化されました。「1人でできないことは助け合っていく」という社内風土が構築されていきました。

トラックボールマウスで仕事もスムーズに

会社になくてはならない存在に

会社が危機的な状況の中で採用された福井さんは、「自分が入ったことで会社がつぶれてしまってはいけない」と思い、とにかくがむしゃらに働きました。顧客から依頼されたプロジェクトをひとつずつ成功させていくうちに、着実に実力も備わり「この仕事で生きていける」という自信も生まれました。

「社会とつながっていたい」という思いが人一倍強い福井さんは、「苦労して作った自分のソフトが世に出て使われてい

しごと情報ひろば ●ワンポイント●　職業相談・職業紹介
「しごと情報ひろば」では、キャリアカウンセリング資格を持つ職業相談員が、担当者制により求職者の方の希望をお聞きしながら相談を実施し、「しごと情報ひろば」が独自に収

ることが、仕事をしていて一番嬉しい」と仕事のやりがいを語ります。

入社4年目の福井さんは、主任として営業 SE もこなし、幅広い業務を担当し、いまや会社になくてはならない存在です。

奥脇社長も、「本当に真面目によく働いてもらっている。初めは心配していたが、必要なところをサポートすることで、素晴らしい人間性や個性を発揮してくれている。会社にとっても私にとっても大事な戦力になっていることを実感している」と言います。

実操作しながら的確に説明する福井さん

冗談を交えながら全員で意見を出し合う営業会議

助成金を使うことも社会貢献につながる

当初奥脇社長は、「助成金に頼らなくてもやっていける」という思いと、申請にかかる事務手続きの煩雑さから助成金を申請しませんでした。

しかし、リハビリセンターの職員から「助成金を活用していくことで助成金の利用実績が向上し、障害者雇用の取り組みをさらに拡大させることにつながる。助成金を活用することも社会貢献になる」とアドバイスされ、目の覚める思いで助成金制度の活用に踏み切りました。オフィス環境整備のための事務所の改装にも「障害者作業施設設置等助成金」（P2参照）を活用しました。

大企業はともかく、中小・零細企業では助成金制度はまだまだ十分に活用されていません。奥進システムでは、障害のある方の雇用促進の取り組みを広げていくために、助成金の申請に必要な手続きや書類作成のコツ・注意点など、経験に基づいたアドバイスをホームページで紹介しています。関心のある方はぜひご覧ください。

縁が取り持つ事業展開も

「縁のあった人がたまたま障害のある人だっただけ」という奥脇社長は、障害の有無にかかわらず、配慮が必要な部分（障害特性）を互いに理解し合うことで良い関係を作るようにしています。また、障害のある方を採用し始めたことで、さまざまな会社や支援団体との付き合いが広がり、新たな事業展開のきっかけともなりました。

取引先や新たな営業開拓には福井さんも同行します。それは、障害者雇用についての理解を広めるためでもあり、そんな取り組みに理解を示してくれるところとは互いに深い信頼関係を築くことができるからです。

“私たちと、私たちにかかわる人たちが、とてもしあわせと思える社会づくりをめざします”という基本理念をかかげる奥進システムでは、今後とも、「障害者雇用」が特別なことではなく、すべての人がお互いを理解するという自然な形で進んでいくことを願っています。

＊1 ECサイト=EC（イーシー）とは電子商取引の略で、「eコマース」と呼ぶこともあります。自社の商品やサービスをインターネット上で販売するサイトのことです。

＊2 SOHO（ソーホー）=Small Office / Home Officeの略で、「パソコンなどを利用して、小さなオフィスや自宅でビジネスを行っている人」といった意味で使われます。

＊3 トラックボールマウス=マウスの一種で、いろんなタイプがあります。奥進システムでは、手の甲を使って画面上のポインタを操作できるタイプを導入。手先が不自由でもパソコン操作が可能です。

家庭でも職場でもそれぞれの得意分野や特性を活かして作業分担をすることで効率があがる。

障害のある方の場合も同じ。
個人の能力、特性を活かして仕事を分担することで
どんな業種でも人が活きる会社になる可能性が生まれる。

大阪市職業リハビリテーションセンター

障害のある方が一人ひとりの状況に合わせて職業知識や技能を修得し、職業人として社会参加できるよう支援する職業能力開発機関です。

住所：大阪市平野区喜連西6−2−55
電話：06-6704-7201　Fax：06-6704-7274

集した求人情報等の中から希望に合った内容が見つかれば、紹介状を発行いたします。
（「しごと情報ひろば」については裏表紙をご覧ください）